

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	市民文化祭実行委員会交付金事業				事業期間	昭和 43 年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	-	-	-	-	所管課係	社会教育課文化学習係	
目的 (何のために実施するのか)	文化活動を行っているすべての市民が、自らが企画・運営し日頃の活動の成果を発表する場を設け、多くの人に鑑賞してもらうことで学習成果の地域への還元や会員の技術面や活動意欲の向上を図るとともに、一般市民への文化活動への関心を高め、砂川市の文化活動が活性化させる。						手段 (どのような方法で実現するのか)		市民文化祭参加団体（公民館グループサークル・文化協会加盟団体・ふれあいセンターサークル・一般参加団体・個人）により準備運営全般にわたり協議する実行委員会組織が編成され、その実行委員会に交付金を交付する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民文化祭実行委員会						成果 (どのような効果が得られるのか)		市民文化祭に多くの人に参画・鑑賞してもらうことで学習成果の地域還元や会員の技術面や活動意欲の向上を図る機会が確保される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	昭和43年度より市内文化団体等が日頃の活動成果を発表する場として開催されている、砂川市民文化祭の経費の全額分を交付金として支出している。また、平成20年度より行財政改革方針により交付金額の10%削減を行った。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0		300,000		300,000					0	300,000
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
	予算計上額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
	実績額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	24,000	324,000	672,000	324,000	324,000	324,000	67,749	1,039,749	2,683,749
事業費合計	計画額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
	予算計上額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
	実績額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	67,749	1,039,749	2,983,749
事業費予算の内容	計画額	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		
	予算計上額	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		
	実績額	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金	砂川市民文化祭 交付金		
前年度予算との比較 (増減理由)	計画額	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額		
	実績額	同額	同額	同額		同額	同額	同額		同額	同額	同額	従前の形での実施を中止したことに伴う減3月補正△233千円		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：交付金額				指標の求め方：交付金額(砂川市民文化祭実行委員会交付金)										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：市民文化祭市民参加率				指標の求め方：出演・発表者数+鑑賞者数/住民基本台帳人口(3月末)×100										
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値	324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000	324,000		
		実績値	324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000	67,749		
指標	成果指標 1 (単位/%)	計画値	15.0	15.0	15.0		15.0	15.0	15.0		15.0	15.0	15.0	15.0		
		実績値	15.0	14.5	15.3		16.9	12.8	14.8		17.9	18.3	18.4	1.2		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)															達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)															上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)															上がっている
	総合評価															良好である
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：事業指標は計画値と同値か変わらない値を示しており、対象者からは概ね好評が得られている。出演・出展者・鑑賞者数を合計した参加者数は、平成22年度の2,649人に対し平成23年度は2,819人と6.4%ほど増加している。	自己分析：活動指標は計画値と概ね変わらない値を示している。しかし、成果指標は計画値に達していなかった。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施されている。実行委員会組織が主体的に活動し、市民の参加率を達成できている。	判断理由：市民文化祭への市民参加率(出場・出展者及び鑑賞者数が住民基本台帳人口に占める割合)の目標値を15%としているところ、平成24年度は14.5%であったため、十分な実績をあげていないが、参加団体数や芸能部門の鑑賞者数は増加していることから、ある程度の実績はあがっている。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施されている。実行委員会組織が主体的に活動し、毎年度新しい試みをしている。本年度は多くの市民が出演、鑑賞をし、参加率を達成できている。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施されている。実行委員会組織が主体的に活動し、毎年度新しい試みをしている。本年度は同日同会場実施としたため、参加率が下がったが、会場の賑わい感などおおむね好評であった。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施されている。実行委員会組織が主体的に活動している。参加率はほぼ計画値に達しており、おおむね好評であった。	判断理由：市民文化祭への市民参加率は2カ年平均すると14.9%であったため、実績的には上がっている。幼児・児童の発表や絵画の展示など広く市民の参加を募り、底上げは図られている。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施され、また、実行委員会組織が主体的に活動している。本年度は50回目を迎えることから記念事業を実施したこともあり、参加率は計画値を上回っており、おおむね好評であった。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施され、また、実行委員会組織が主体的に活動している。本年度は市制施行60周年の記念事業を実施したこともあり、参加率は計画値を上回っており、おおむね好評であった。	自己分析：交付金額が定額となり、事業が実施され、また、実行委員会組織が主体的に活動している。参加率は計画値を上回っており、おおむね好評であった。	自己分析：新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、従前の形での実施には至らなかったが、前回の写真の展示を行ったことから、各指標は計画値を大幅に下回ったが、実行委員会が主体的に実施について判断や実施内容の変更を行うなど、自主的な文化活動の活性化に寄与している。	判断理由：市民文化祭への市民参加率計画値を上回っており、成果が上がっている。幼児・児童の発表や絵画の展示など広く市民の参加を募り、学習成果の地域還元や技術面・活動意欲の向上を図る機会となっている。	現状のまま継続
	今後の方向性															現状のまま継続
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 発表する側だけでなく、関心が得られるような事業展開を行うなどの問題意識は実行委員会ももっている。また、実行委員会の主体性を強めるといって方向性も明確になってきているため。				H28： 実行委員会が主体的に活動し、限られた経費の中で工夫しながら、参加者(出場・出展・鑑賞者)が楽しみながら実施できている。新規参加者への周知方法や個人参加を促す方法の検討は今後必要と考える。				H30： 実行委員会が主体的に活動し、経費に限られるなどの制約の中、よりよい方法・手段を検討して、参加者(出場・出展・鑑賞者)も楽しみながら芸術文化の振興を図る事業として実施されている。今後は、新規の参加を促すための周知の方法についての検討が必要と考える。						

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名		文化協会支援事業				事業期間	昭和 43 年度 ~ — 年度						所管課係	社会教育課文化学習係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	文化協会の運営費の一部を補助し、砂川市の芸術・文化の振興を図る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	砂川市文化協会に対し運営費の一部を補助する(道文化協会への負担金分)。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	砂川市文化協会							成果 (どのような効果が得られるのか)	砂川市の芸術・文化の発展に寄与することを目的として設立された文化協会に補助金を交付することにより活動を支援し、市民に芸術文化を広める。						
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	昭和42年に、砂川市の芸術・文化の発展に寄与することを目的として設立された文化協会の活動支援として運営費の一部を補助している。 また、平成20年度より行財政改革方針により上部団体への負担金相当額34,100円とした。 その後、上部団体の負担金が値下げされたことから現在の補助額33,000円となった。														

【DO】

実績

(単位：円)

投入された事業費の推移	国費 道費 地方債 その他 一般財源 事業費合計	計画額 予算計上額 実績額	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合 計画 計	
			第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
			23年度	24年度	25年度	23-25年度	26年度	27年度	28年度	26-28年度	29年度	30年度	31・R元年度	R2年度		29-32年度
の 推 移	事業費予算の内容	計画額				0				0	12,000	12,000	12,000	12,000	48,000	48,000
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	前年度予算との比較 (増減理由)	計画額				0				0	25,000	25,000	25,000	25,000	100,000	100,000
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	実績との比較 (増減理由)	計画額	33,000	33,000	33,000	99,000	233,000	233,000	233,000	699,000	690,000	190,000	190,000	190,000	1,260,000	2,058,000
		予算計上額	33,000	33,000	233,000	299,000	233,000	233,000	233,000	699,000	733,000	233,000	587,000	536,000	2,089,000	3,087,000
		実績額	33,000	33,000	233,000	299,000	233,000	233,000	233,000	699,000	733,000	231,200	386,200	111,200	1,461,600	2,459,600
	事業費予算の内容	計画額	33,000	33,000	33,000	99,000	233,000	233,000	233,000	699,000	733,000	233,000	233,000	233,000	1,432,000	2,230,000
		予算計上額	33,000	33,000	233,000	299,000	233,000	233,000	233,000	699,000	733,000	233,000	587,000	536,000	2,089,000	3,087,000
		実績額	33,000	33,000	233,000	299,000	233,000	233,000	233,000	699,000	733,000	231,200	386,200	111,200	1,461,600	2,459,600
前年度予算との比較 (増減理由)	計画額	砂川市文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	砂川市文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200		文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200		文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200、みんなの音楽まつり交付金351	文化協会補助金(空知文化連盟分)33、文化連盟分33、文化振興事業交付金200、みんなの音楽まつり交付金299			
	予算計上額	前年度同額	前年度同額	文化振興事業交付金新規予算のため、増額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		創立50周年記念事業補助金分増額	前々年度同額	文化協会補助金の増額及びみんなの音楽まつり新規予算のため増額	みんなの音楽祭り交付金の減			
	実績額	同額	同額	同額		同額	同額	同額		同額	空知文化連盟分担当の減額による執行残	砂川市みんなの音楽まつり補助金減額による減	事業・会議中止による交付金・補助額の減3月補正△424			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：補助金額				指標の求め方：補助金額(砂川市文化協会補助金)										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：文化協会加盟団体合計会員数				指標の求め方：文化協会加盟団体合計会員数										
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値	33,000	33,000	33,000		33,000	33,000	33,000		33,000	33,000	33,000	33,000		
		実績値	33,000	33,000	233,000		233,000	233,000	233,000		733,000	231,200	386,200	111,200		
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値	379	374	370		366	362	357		353	349	344	340		
		実績値	387	360	342		364	243	220		203	193	175	150		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている					達成されている					達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない					変わらない					変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない					変わらない					変わらない
	総合評価					問題がある					問題がある					問題がある
	総合評価の判断理由	自己分析：補助対象団体における会員の高齢化等、課題が多くなってきているが、事業の指標は全体的に良好な状態にある	自己分析：会員数が前年度から大きく減少し、成果指標が計画値を割る結果となった。	自己分析：会員数は前年度より減少しているが、文化振興事業交付金により、新たな事業を行っており、各事業への参加も図られている。	判断理由：砂川市文化協会の加盟団体の合計会員数は減少しており、当該団体の運営を維持していくためには必要な支援制度となっているもの、芸術・文化の振興を図るためには、他の手段の検討も必要である。	自己分析：会員数は前年度より増加している。文化振興事業交付金により、新たに試みた事業を行っており、各事業への参加も図られている。	自己分析：会員数は前年度より減少している。文化振興事業交付金を活用しながら、空知管内郷土芸術祭、北空知コーラス合同演奏会などの事業を行っており、各事業への参加も図られている。	自己分析：会員数は前年度より減少している。文化振興事業交付金を活用しながら、空知管内の文化連盟事業を行っており、各事業への参加も図られている。	判断理由：砂川市文化協会の加盟団体の合計会員数は減少しており、当該団体の運営を維持していくためには必要な支援制度となっている。会員増加や芸術・文化の振興を図るための検討は必要である。	自己分析：会員数は前年度より減少している。今年度は創立50周年であり、記念事業補助金分を活用して、記念式典の発行を行った。文化振興事業交付金を活用して、空知管内の文化連盟事業などを行っており、各事業への参加も図られている。	自己分析：会員数は前年度より減少している。文化振興事業交付金を活用しながら、空知管内の文化連盟事業を行っており、各事業への参加も図られている。	自己分析：会員数は前年度より減少している。文化振興事業交付金を活用しながら、空知管内の文化連盟事業を行っており、各事業への参加も図られている。新たに「砂川市みんなの音楽まつり」を開催し、市民文化の振興、発展が図られた。	自己分析：新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、「砂川みんなの音楽まつり」が中止となったことなどにより、補助金額が前年と比較して大幅に減少し、会員数も前年度より減少しているが、市民文化の振興、発展が図られている。	判断理由：砂川市文化協会の加盟団体の合計会員数の減少傾向が続いているため総合評価を問題があると見た。会員増加や芸術・文化の振興を図るための検討が必要であるが、当該団体の運営を維持していくためには必要な支援制度となっていることから、今後の方向性については現状のまま継続とした。		
今後の方向性					手段の見直し					現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：活動を下支える事業として機能していることから、本事業に加えて、砂川市の文化振興を図る取り組みについては文化協会とも協議しながら新たな事業展開を実施していく。					H28：活動を支える事業として必要である。砂川市の文化振興を図る取り組みについては文化協会とも協議しながら事業内容を検討していく。					H30：文化協会の活動を支援する事業として必要である。砂川市の芸術・文化振興を図る取り組みについては文化協会とも協議しながら事業内容を検討していく。					

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	地域交流センター運営管理委託事業				事業期間	平成 18 年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-5-1	他に関連する基本事業	6-1-1	-	-	-	-	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	管理運営主体であるNPO法人ゆうの自主事業によって、世代間の交流や新たな文化創造が醸成され、また自由通路を通じて東西への回遊性向上と中心市街地の活性化促進、日常的な賑わいと交流拠点施設としていくための土台となる運営経費を委託料として支出し、民間ならではの効率的で効果的な管理運営をおこなっていくことを目的とする。						手段 (どのような方法で実現するのか)		市から交付される委託料に加え法人の営業努力によって利用料金の収入を得、日常的な賑わいを創出するとともに、NPO法人ゆうの構成員である事務局員、正会員（理事・監事）のほか、ボランティアが新たな芸術文化、各種イベントを市民に提供し、賑わいの拠点施設としていく。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	指定管理団体（NPO法人ゆう）						成果 (どのような効果が得られるのか)		市民で構成するNPO法人が管理運営していることで市民の手で支えられているという意識が広がり、利用者の施設に対する愛着度が向上して利用者数・利用料金の増加につながる。また市街地と隣接した交流センターでの自主事業を展開することによって市街地への経済波及効果と市民への新たな芸術文化意識の醸成も期待でき、賑わい交流拠点が形成される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）	地域交流センターゆうは、市民会館の代替施設として平成19年1月7日にオープンした。開設後、利活用が非常に多く年間82,323人の利用があり、現在も順調に推移している。これは管理運営が指定管理者（NPO法人）であることから、指定管理者（NPO法人）独自の自主事業の展開や利活用団体に対するPRの徹底等が要因となっている。また、市から必要最小限の事務費、自主事業費、人件費及び維持管理費を支出しているが、予算の範囲内で効率的で効果的な管理運営が行われている。委託料は、指定管理者の期限である令和4年3月31日まで支出していく。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画合計	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0		57,000,000		57,000,000					0	57,000,000
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	48,121,000	44,910,000	44,910,000	137,941,000	57,032,000	57,032,000	57,032,000	171,096,000	59,414,000	58,982,000	58,982,000	58,982,000	236,360,000	545,397,000
	予算計上額	48,121,000	48,418,000	53,647,000	150,186,000	57,032,000	56,762,000	59,783,000	173,577,000	59,414,000	68,615,000	69,519,000	62,738,000	260,286,000	584,049,000
	実績額	48,120,701	48,418,000	53,645,847	150,184,548	60,912,597	2,145,336	59,539,860	122,597,793	59,265,627	68,107,517	69,064,849	59,518,664	255,956,657	528,738,998
事業費合計	計画額	48,121,000	44,910,000	44,910,000	137,941,000	57,032,000	57,032,000	57,032,000	171,096,000	59,414,000	58,982,000	58,982,000	58,982,000	236,360,000	545,397,000
	予算計上額	48,121,000	48,418,000	53,647,000	150,186,000	57,032,000	56,762,000	59,783,000	173,577,000	59,414,000	68,615,000	69,519,000	62,738,000	260,286,000	584,049,000
	実績額	48,120,701	48,418,000	53,645,847	150,184,548	60,912,597	59,145,336	59,539,860	179,597,793	59,265,627	68,107,517	69,064,849	59,518,664	255,956,657	585,738,998
事業費予算の内容	運営管理委託料														
	光熱水費などの施設管理費の増加による														
	人件費や維持管理費の増加による														
前年度予算との比較 (増減理由)	同額	同額	同額			維持管理費の増	維持管理費の増	維持管理費の減		維持管理費の減	人件費の減	消費税率の引上げ、人件費の増加による	人件費の減		
	同額	同額	同額			維持管理費の増	維持管理費の増	維持管理費の減		維持管理費の減	人件費の減	人件費の減	臨時休館による維持管理費、人件費の減。3月補正△3218千円		
	同額	同額	同額			維持管理費の増	維持管理費の増	維持管理費の減		維持管理費の減	人件費の減	人件費の減	臨時休館による維持管理費、人件費の減。3月補正△3218千円		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：利用回数			指標の求め方：施設の年間稼働件数										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：利用者数			指標の求め方：施設の利用者及び来館者数計										
指標	活動指標 1 (単位/回/延)	計画値	2,850	2,850	2,850		2,850	2,870	2,870		2,870	2,870	2,870	2,900	
		実績値	3,235	3,099	3,111		3,055	3,479	3,246		3,107	2,954	2,372	1,665	
指標	成果指標 1 (単位/人/延)	計画値	70,000	70,000	70,000		70,000	73,000	73,000		73,000	73,000	73,000	75,000	
		実績値	64,471	65,563	62,866		70,755	74,525	67,221		66,073	68,264	57,170	23,750	
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)														少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)														変わらない
	総合評価														良好である
	総合評価の判断理由	自己分析： 利用人数は開設当初と比べ減少傾向にあるが、大規模事業の有無により増減が生じることから、市民が芸術文化に親しむ場所として定着している。地域ボランティアの協力のもと順調に運営がされている。	自己分析： 有効な施設利用が推進され、市民からの愛着度も高く、文化の活動拠点として定着している。	自己分析： NPO法人として効果的な管理運営を行い、市民の交流拠点として定着している。	判断理由： 稼働率が高く、市民が文化に親しむ活動拠点として機能を果たしていることから、良好と判断。	自己分析： 市民で構成するNPO法人が管理運営することで市民の手で支えられているという意識が広がり、利用者の施設に対する愛着度が向上して利用者数・利用料金の増加につながっている。	自己分析： 有効な施設利用が推進され、市民の文化交流活動拠点として定着している。	自己分析： 公民館耐震改修工事の利用増による反動から利用者は減少したが、稼働件数は十分な数値となり、文化活動交流拠点としての役割を十分に果たしているといえる。	判断理由： 稼働率が高く、市民が文化に親しむ活動拠点として機能を果たしていることから、良好と判断。	自己分析： 利用回数は減少傾向にあるものの、計画値を上回る状況である。利用者数は計画値・前年実績値を下回る結果となったが、貸館収益面では昨年より増収となっており、大ホール及びミニホールの稼働率は、直近5年間の最高値を記録していることから、芸術文化意識の醸成、まちの賑わいの創出に一定程度の寄与をしている。	自己分析： 利用回数は減少傾向にあるものの、計画値を上回る状況である。利用者数は前年より若干増加しており、計画値には及ばなかったものの、93.5%を達成しており、芸術文化意識の醸成、まちの賑わいの創出に一定程度の寄与をしている。	自己分析： 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、貸館事業・自主事業が自粛や中止となったため、利用実績が減少しているが、そのような中でも、自主事業の魅力向上や内容の充実を図るなどの工夫を積み重ね、芸術文化意識の醸成やまちの賑わいの創出に一定程度寄与している。	自己分析： 新型コロナウイルスの影響により活動自粛や臨時休館を余儀なくされ、利用者数ともに大幅に減少した。感染症対策等の制約がある中、市民から支持を得ている事業を継続して実施するなど、自主事業を展開しており、芸術文化意識の醸成やまちの賑わいの創出に一定程度寄与している。	判断理由： 活動指標が計画値を上回っているため、事業の達成度は良好であり、成果指標は計画値は下回っているが、H29・30平均で9割の実績を上げていることから、ある程度の成果をあげているところであり、効率性も大きく変化していないため、全体としては良好であると判断した。	
今後の方向性					現状のまま継続										現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 平成25年度の指定管理者の更新に向けて、NPO法人ゆうと協議を行い施設管理費や人件費の見直しを図り、より効率的で効果的な管理運営が行われる環境を整備した。				H28： 稼働率が高く、施設設備や運営方法については市内のみならず、市外からの評価も高い。しかしながら、建設後10年を過ぎ設備や建物本体の経年劣化が開始しているため、定期的な点検に基づき計画的な修繕を行っていくことが必要となってきている。				H30： 人口が減少傾向にありながらも、一定程度の施設が稼働しており、市内外からの評価も高く、事業も定着してきていることから、現在の施設機能を維持しつつ事業を継続する必要がある。						

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	市史編さん事業				事業期間	平成 29 年度 ～ 令和 2 年度					所管課係	総務課庶務係	
事業性質区分	新規・継続	新規	建設・建設外	建設外	第6期総合計画 の位置付け	3-5-2	他に関連する 基本事業	-	-	-	-	-	-
目的 (何のために実施する のか)	砂川の現代史（平成元年から平成32年まで）を記録、保存することで、砂川の歴史・文化を後世の人に伝承するとともに、市民の郷土に対する理解と関心魅力を深め、今後の魅力あるまちづくりに資するものである。						手段 (どのような方法で 実現するのか)	指名型プロポーザル方式で企画提案・実績・進行・見積もりなどを評価・検討したうえで、最も適切な業者を選定し、市史編さん委員と協働で編さん作業を進める。					
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民及び市内外の関係機関						成果 (どのような効果が 得られるのか)	市史を発行し、市民及び市内外の関係機関等に配付することにより砂川の歴史・文化を伝えていく。					
事業開始時の状況・これまでの 経緯（行革内容含む）	昭和46年2月に開基80周年を記念して「砂川市史」を刊行。平成3年3月には開基100周年を記念して「私たちの砂川市史」を刊行以来、およそ30年振りの続編としての編さん作業となるが、目次構成などを普遍的な形式で編さんすることなど、将来的な続刊を想定した構成を検討。												

【DO】

実績

(単位:円)

事業費の 投入された 事業費 の 推移	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計 画計	
	第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
国 費	計画額			0				0					0	0
	予算計上額			0				0					0	0
	実績額			0				0					0	0
道 費	計画額			0				0					0	0
	予算計上額			0				0					0	0
	実績額			0				0					0	0
地 方 債	計画額			0				0					0	0
	予算計上額			0				0					0	0
	実績額			0				0					0	0
そ の 他	計画額			0				0					0	0
	予算計上額			0				0					0	0
	実績額			0				0					0	0
一 般 財 源	計画額			0				0	938,000	7,643,000	7,643,000	7,643,000	23,867,000	23,867,000
	予算計上額			0				0	938,000	7,666,000	9,042,000	5,936,000	23,582,000	23,582,000
	実績額			0				0	898,540	7,629,080	8,965,740	5,830,000	23,323,360	23,323,360
事業費合計	計画額	0	0	0	0	0	0	0	938,000	7,643,000	7,643,000	7,643,000	23,867,000	23,867,000
	予算計上額	0	0	0	0	0	0	0	938,000	7,666,000	9,042,000	5,936,000	23,582,000	23,582,000
	実績額	0	0	0	0	0	0	0	898,540	7,629,080	8,965,740	5,830,000	23,323,360	23,323,360
事業費予算の 内容								委員報酬 69,000円 費用弁償 5,000円 委託料 864,000円	委員報酬 103,000円 費用弁償 3,000円 委託料 7,560,000円	委員報酬 103,000円 費用弁償 3,000円 委託料 8,936,000円	委員報酬 103,000円 費用弁償 3,000円 委託料 5,830,000円			
前年度予算との比較 (増減理由)										制作委託費の支出額の増額によるもの。	制作委託費の支出額の増額によるもの。			
実績との比較 (増減理由)									委員会開催数2回⇒1回へ減によるもの。	委員会開催数3回⇒2回へ減によるもの。	委員会開催数3回⇒1回へ減によるもの。	委員会開催数3回⇒0回へ減によるもの。(新型コロナウイルス感染症対策として年度内開催中止)		

【CHECK・ACTION】

2.85 24.90 29.43 19.20
 864,000 7,560,000 8,936,000 5,830,000

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：市史編さん委員会	指標の求め方：市史編さん委員会開催数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市史編さん進捗状況	指標の求め方：市史編さん進捗状況

指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値								2	3	3	3	
	実績値									1	2	1	0	
成果指標 1 (単位/%)	計画値									10	25	25	30	
	実績値									3	25	25	24	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													変わらない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													変わらない
	総合評価													良好である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析： 平成29年9月22日に砂川市史編さん委託業務受託候補者選定プロポーザル審査評定を行い、受託候補者を山藤三陽印刷㈱(札幌市西区宮の沢1条4丁目16番1号)に決定し、10月30日に契約締結。12月13日に第1回市史編さん委員会を開催し、市史編さんの構成等について協議し、意見をとりまとめ、史料収集等の作業に着手したことから、平成29年度の進捗状況は良好と判断する。	自己分析： 平成30年9月19日、平成31年3月19日に砂川市史編さん委員会を開催し、第1章(平成元年～10年)及び第2章(平成11年～20年)の初稿提出から、随時、担当課による校正と委託事業者による書き下ろしの作業を行っており、平成30年度はスケジュールどおりの進捗状況であり良好と判断する。	自己分析： 令和元年9月19日に砂川市史編さん委員会を開催し(年度末に予定していた委員会は新型コロナウイルス感染症防止策として、延期とした。)、第1章(平成元年～10年)、第2章(平成11年～20年)及び第3章(平成21年～30年)の原稿作成及び校正並びに「私たちの砂川市史」のリライト原稿の校正を行っているが、スケジュールよりも遅れている部分もあるため、校了に向けて能率を上げていくことが必須である。	自己分析： 令和2年度の委員会は、新型コロナウイルス感染症防止策として中止の判断をした。第1章(平成元年～10年)、第2章(平成11年～20年)、第3章(平成21年～30年)及び第4章(平成31年～令和3年)の原稿作成及び校正並びに「私たちの砂川市史」のリライト原稿の校正を行っているが、スケジュールよりも遅れている部分があるため、校了に向けて能率を上げていくことが必須である。	判断理由： 5年間の事業工程のうち、前半の2年度で委託事業者の選定及び決定、砂川市史編さん委員会の立ち上げ、資料収集、取材、原稿書き下ろしから校正まで、スケジュールどおりに進捗していることから、良好と判断する。
今後の方向性														現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容(H25、H28、H30)	H25：				H28：				H30： 昭和46年2月に開基80周年を記念して「砂川市史」を刊行し、平成3年3月には開基100周年を記念して「私たちの砂川市史」を刊行以来、およそ30年振りの続編としての「平成版」の編さん作業となるが、目次構成などを普遍的な形式で編さんすることなど、将来的な続刊を想定した構成要素を整理していく。					

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	郷土研究会支援事業				事業期間	昭和 43 年度 ~ — 年度							所管課係	社会教育課文化学習係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-5-2	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	郷土砂川の歴史を後世に残すため、郷土研究誌を発行する団体に対し補助を行う。							手段 (どのような方法で実現するのか)	砂川の歴史を継承する研究誌を発行している砂川市郷土研究会に補助をする。(定額補助)						
対象 (誰・何を対象としているのか)	砂川市郷土研究会							成果 (どのような効果が得られるのか)	郷土研究誌を発行し、市内外の関係機関等に配布することにより砂川の歴史を伝えていく。						
事業開始時の状況・これまでの経緯(行革内容含む)	昭和30年より発行の郷土研究誌「郷土研究」を編集している砂川市郷土研究会(昭和29年設立)に対し、郷土研究誌「郷土研究」の印刷費用を補助している。また、行財政改革方針に伴い平成17年度に補助金額を10%削減している。														

【DO】

実績

(単位:円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000
	予算計上額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000
	実績額	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800	154,800	154,800	619,200	1,548,000
事業費合計	計画額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000
	予算計上額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000
	実績額	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800	154,800	154,800	619,200	1,548,000
事業費予算の内容		「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助		「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助		「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助		
	前年度予算との比較(増減理由)	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額		
	実績との比較(増減理由)	同額	同額	同額		同額	同額	同額		同額	同額	同額	同額		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：補助金額				指標の求め方：補助金額(郷土研究会補助金)										
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：郷土研究会合計会員数				指標の求め方：郷土研究会合計会員数										
指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値	155,000	155,000	155,000		155,000	155,000	155,000		155,000	155,000	155,000	155,000		
		実績値	155,000	154,800	154,800		154,800	154,800	154,800		154,800	154,800	154,800	154,800		
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値	20	20	20		19	19	19		18	18	18	17		
		実績値	17	17	13		14	17	15		16	13	16	14		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている					達成されている					達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない					少し上がっている					少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない					変わらない					変わらない
	総合評価					良好である					良好である					良好である
	総合評価の判断理由	自己分析：会員数の減少に歯止めがかからない状態にあるが、活動を維持する重要な財源となっている	自己分析：活動指標は計画値を達成できたが、成果指標が計画値を満たすことができなかった。	自己分析：会員数の減少傾向は続いている。会員の高齢化もあり、新たな会員の増が必要である。	判断理由：郷土研究会の会員は減少傾向にあるが、郷土研究会の中心的研究活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料として位置づけられていることから必要な制度であるため。	自己分析：会員数は1名だけ増加している。郷土研究会が設立60年となることから、「郷土研究」発刊に合わせ、記念号として発刊した。史蹟等の研修事業も好評であった。	自己分析：会員数は3名増加している。「郷土研究」発刊し、第49集となる。北海道博物館への研修視察や、アイヌ研究家杉山四郎氏を講師に招くなど、例会活動も行なわれている。	自己分析：会員数は2名減少している。「郷土研究」第50集を発刊した。市内研修視察や例会活動も行なわれている。	判断理由：郷土研究会の会員は若干増加している。郷土研究会の中心的研究活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料として位置づけられていることから必要な支援である。	自己分析：会員数は1名だけ増加している。「郷土研究」第51集を発刊した。北海道大学総合博物館や管内への研修視察など、例会活動も行なわれている。	自己分析：会員数は3名減少している。「郷土研究」第52集を発刊した。市制施行60周年を迎え市内史跡探訪を実施、また、市民文化祭において砂川の歴史展を行うなどした。例会活動も行なわれている。	自己分析：会員数は3名増加している。「郷土研究」第53集を発刊した。増毛・沼田両町への研修視察や管内では事業協力など、例会活動も行なわれている。	自己分析：会員数は2名減少している。「郷土研究」第54集を発刊した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け視察などの活動は行われなかったが、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料を制作することができたことから、一定程度の実績は上がっている。	判断理由：郷土研究会の会員は減少傾向にあるが、郷土研究会の中心的研究活動である研究誌の印刷製本費を助成しており、市の郷土史等を後世に残す貴重な資料として位置づけられていることから、必要な支援事業であるため。		
今後の方向性					現状のまま継続					現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 郷土研究誌が郷土史を後世に残すために重要な資料であるとともに、郷土研究会においても主要な事業となっており、会の運営を支える事業としても機能していることから、このまま継続する方針である。				H28： 郷土研究誌が郷土史を後世に残すために重要な資料であるとともに、郷土研究会においても主要な事業となっており、会の運営を支える事業としても機能しており、教育委員会としても側面的な支援をしながら、このまま継続する方針である。				H30： 郷土研究誌は、郷土史を後世に伝えるために重要な資料であるとともに、郷土研究会の運営面においても主要な事業として機能していることから、教育委員会においても側面的な支援をしながら、引き続き継続していく。							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：指定文化財情報提供回数	指標の求め方：指定文化財情報提供回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：文化財関連事業市民参加数	指標の求め方：文化財関連事業市民参加数
活動指標 2	指標名：文化財保護審議会開催回数	指標の求め方：文化財保護審議会開催回数
成果指標 2	指標名：	指標の求め方：

指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	実績値	活動指標 2 (単位/回)	計画値	実績値	成果指標 1 (単位/人)	計画値	実績値	成果指標 2 (単位/人)	計画値	実績値	
		3	2		3	2		340	500		3	2	318
事業	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている							ほぼ達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている							上がっている	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている							少し上がっている	
	総合評価				良好である							良好である	
業務	評価内容	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する情報提供の回数が予定より少なかったが、参加者の数は計画値を上回っている。また、文化財保護審議会も計画のとおり開催できた。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する情報提供の回数が予定より少なかったが、参加者の数は計画値を上回っている。また、文化財保護審議会も計画のとおり開催できた。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する情報提供の回数が予定より少なかったが、参加者の数は計画値を上回っている。また、文化財保護審議会も計画のとおり開催できた。	判断理由：市の唯一の指定文化財である「街頭もちつき」について、目標とする参加者数を達成できた。また、文化財保護審議会についても文化財に対する理解を深めることができている。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する活動状況や活動予定を情報提供した。文化財保護審議会は1回の開催となった。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する活動状況や活動予定を情報提供した。文化財保護審議会は1回の開催となった。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する活動状況や活動予定を情報提供した。文化財保護審議会は1回の開催となった。	判断理由：市の唯一の指定文化財である「街頭もちつき」について、目標とする参加者数を達成できた。また、文化財保護審議会についても文化財に対する理解を深めることができている。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する活動状況や活動予定を情報提供した。文化財保護審議会は1回の開催となった。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する活動状況や活動予定を情報提供した。また、指定文化財補助金により、開始から120年を迎えた街頭もちつきの記録誌が作成され、後世への伝承が図られた。文化財保護審議会は1回の開催となった。	自己分析：指定文化財の街頭もちつきに関する中止の情報や検討資料に関する情報提供を行った。文化財保護審議会は1回の開催となった。	判断理由：市の唯一の指定文化財である「街頭もちつき」について、目標とする参加者数を達成できた。また、文化財保護審議会についても文化財に対する理解を深めることができている。
		今後の方向性				現状のまま継続							現状のまま継続
評価	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 指定文化財の保持団体との連携体制の強化や文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていく必要があるが明確な方向性は示されていない。				H28： 指定文化財の保持団体との連携体制や保持団体の会員数を維持しなければ活動の継続性が失われる。文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていくため、文化財に対する理解を深めていく必要がある。				H30： 指定文化財保存のためには保持団体活動の継続が必要であることから、連携体制を密接にして会員数維持などにつとめていく。また、文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていくため、文化財に対する理解を深めていく必要がある。			

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	郷土資料収集・管理・活用事業				事業期間 第6期総合計画 の位置付け	— 年度 ~ — 年度						所管課係	社会教育課文化学習係	
	新規・継続	新規	建設・建設外	建設外		3-5-2	他に関連する 基本事業	—	—	—	—			
目的 (何のために実施する のか)	市の歴史を後世に伝える郷土資料を収集・管理するとともに、積極的な周知をしながら教育資料として利活用を図り、郷土に対する愛着や先人の知恵を知る機会を提供する。 また、市郷土資料室で行っている資料整理・整頓等の業務を市民ボランティアの協力を得ながら行うことで、郷土資料室業務に直接ふれ、より郷土資料に対する普及・啓発を図るとともに、整理・整頓・保管を適切に行う。													
手段 (どのような方法で 実現するのか)														
対象 (誰・何を対象として いるのか)	市民													
事業開始時の状況・これまでの 経緯（行革内容含む）	市民等からの情報をもらい、砂川市に関連のあるもの、所蔵していないもの、特に貴重と思われるものを重点に収集し、適切に保存しながら、使用可能なものについては、学校支援地域本部事業等を通じて教育資料として貸与するなどして活用してもらう。 市民等に広報「すながわ」、オアシス通信、市公式ホームページ等を媒体として市民ボランティアを募集し、郷土資料の整理方法等の研修を行ったうえで登録し、資料整理の業務を定期的に協力してもらう。 郷土資料を適切に収集・管理することにより後世に継承でき、資料の積極的な周知・活用の機会を確保することにより郷土に対する理解や愛着を深めることができる。 また、郷土資料室の業務に協力してもらうボランティア登録者を拡大することにより、郷土資料に対して理解する市民が増え、未整理資料の処理が進む。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 合計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入 された 事業費 の 推移	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
一般財源	計画額	1,000	12,000	12,000	25,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	32,000	
	予算計上額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	472,000	458,000	932,000	938,000	
	実績額	790	807	838	2,435	814	2,214	0	3,028	1,176	3,909	470,778	453,948	929,811	935,274	
事業費合計	計画額	1,000	12,000	12,000	25,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	32,000	
	予算計上額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	472,000	458,000	932,000	938,000	
	実績額	790	807	838	2,435	814	2,214	0	3,028	1,176	3,909	470,778	453,948	929,811	935,274	
事業費予算の内容		用紙代	用紙代	用紙代		用紙代	用紙代	用紙代		用紙代	用紙代	用紙代、郷土資料 室資料デジタル 化委託料	用紙代、郷土資料 室資料デジタル 化委託料			
	前年度予算との 比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	用紙代1千円は前 年度同額。資料デ ジタル化委託料 471千円増額。	用紙代1千円は前 年度同額。資料デ ジタル化委託料 453千円増額。			
	実績との比較 (増減理由)	同額	同額	執行残		執行残	周知のためのチ ラシ印刷増のた め	未執行		周知のためのチ ラシ印刷増のた め	周知のためのチ ラシ印刷増のた め	資料デジタル化委 託料見合わせ減、 周知のためのチラシ 印刷増。	資料デジタル化委 託料見合わせ減			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新規資料収蔵数	指標の求め方：年度内に収集した資料数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：郷土資料利用者市民利用率	指標の求め方：郷土資料利用者数/住民基本台帳人口(3月末)×100

指標	活動指標 1 (単位/点)	計画値	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50		
	実績値	510	500	582	683	132	394	86	970	369	264				
成果指標 1 (単位/%)	計画値	14.0	14.8	15.6	16.4	17.0	17.6	18.2	18.8	19.4	20.0				
	実績値	12.4	11.4	12.2	11.8	4.8	8.3	8.7	12.9	8.2	5.0				
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている					達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない				上がっていない					変わらない	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない					変わらない	
	総合評価				普通である				良好である					良好である	
	総合評価の判断理由	自己分析：史料収蔵や講座の実施など事業の達成度は満たしているが、冬期間の豪雪等が影響し、郷土資料室市民利用率が計画値を若干下回っている	自己分析：資料収蔵については指標を満たしているが、市民利用率が計画値、前年度比でも下回っている	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度を上回っている。資料の整理と有効活用を図ってゆく。	判断理由：今年度の市民利用率の目標を14.8%としていたところ、11.4%と下回っているが、1日当たりの利用者数は昨年とほぼ同じであり、小学校の団体見学などはコンスタントに利用されており一定の実績はあげている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度下回ったが、公民館の資料貸出や、出前講座(1回)、子供向け事業ナイトミュージアムを実施し、郷土資料を活用できている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度下回ったが、小学校の団体見学などにはコンスタントに利用されており、一定程度、郷土資料を活用できている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前々年度を下回ったが、小学校の団体見学などにはコンスタントに利用されており、一定程度、郷土資料を活用できている。	判断理由：市民利用率については、目標を下回ってはいるが、小学校の団体見学などは定期的に利用されており学習教材として利用されている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度と比較してほぼ横ばいに推移している。小学校の団体見学などにもコンスタントに利用されていることから、一定程度、郷土資料を活用できている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度と比較して増加している。小学校の団体見学などにもコンスタントに利用されていることから、一定程度、郷土資料を活用できている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度より減少しているが、前々年度と比較してほぼ横ばいに推移している。小学校の団体見学などにも利用されていることから、一定程度、郷土資料を活用できている。	自己分析：資料については、市民からの情報提供により収蔵できている。市民利用率は前年度より減少しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため臨時休館した影響もあったためであり、小学校の団体見学などにも利用されていることから、一定程度、郷土資料を活用できている。	判断理由：市民利用率については、目標を下回ってはいるが、小学校の団体見学などは定期的に利用されており学習教材として利用されている。また、後世に残すべき郷土資料のデジタルデータ化によって、適切な管理が図られ、活用が図られた。	
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続		
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 収蔵場所の狭小化については、郷土資料室ボランティアの協力も得ながら徐々に資料の整理を行っていく方針である。				H28： 収蔵場所の狭小化については、郷土資料室ボランティアの協力も得ながら徐々に資料の整理をすすめる。魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、見直しをする方針である。				H30： 魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、さらには郷土資料室内展示の改修を検討していく。小学校等の団体見学は定期的に利用されており学習教材として利用されている。視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別してデジタル化し、適切に管理・保存し活用する。収蔵場所の狭小化の対策として、郷土資料室ボランティアの協力も得ながら引き続き資料の整理を進める。						